

奨励賞



設計担当者

中西ひろむ

大阪府建築士会、中西ひろむ建築設計事務所

美術館／福井県大野市元町

COCONO アートプレイス (大野市古民家ギャラリー)

構造 | 木造伝統工法

階数 | 地上2階

敷地面積 | 776.39㎡

建築面積 | 422.96㎡

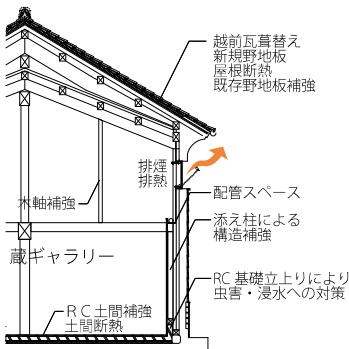
延べ面積 | 478.40㎡

竣工 | 平成30年1月31日

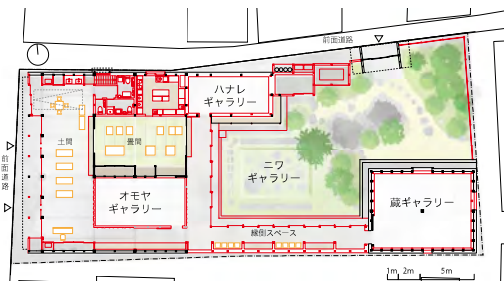


1

2



蔵ギャラリー断面詳細図



計画後1階平面図

- 1 蔵ギャラリー。展示室内部は吹抜けとし、伝統的架構を保存しながら、新たにふかし壁を挿入
- 2 壁柱構法による補強と木架構あわしの土間
- 3 庭ギャラリー。舞台状スペースを設け、ワークショップや講演活動に活用
- 4 改修後外観。伝統的な黒漆喰壁と越前瓦を活用しながら、1階部分をガラス張りで開放的に計画



3



4

選評

この建物は、大野市民所有のアート作品を展示するギャラリーなのであるが、なぜ市民の所有するアート作品を展示するのか、その理由が興味深い。1950年代大野市近辺で、アート作品を3点以上所有する人を「小コレクター」と呼び、アートの理解を深める運動があったことがその理由である。当時の「小コレクター」である市民所有のそれらアート作品は、明治期に建設された築120年以上の町家が改修され

生まれ変わった空間に、相互に想いが呼応するように取まっていた。

耐震性向上のために採用した壁柱工法は、その木質感が力強くもあり美しくもあり、この建物の内部空間を印象付ける重要なモチーフになっている。また、地元縁のあるアーティストの企画展示のための蔵ギャラリーは、外周の柱を添え柱補強の上、白い壁で包み、見上げれば新旧構造材による小屋組みが時間の経緯

を感じさせる。

訪れたこの日は庭に、風や光を感じさせる布の帯がたなびいていて、庭も大切な展示スペースであることがわかった。既存の笏谷石を据え直した舞台状の展示スペースは、かつて日本庭園だったであろう雰囲気とは違う、突き抜けた明るさがあり、アートを日常的に親しんでいた大野市民にふさわしい空間ができたのだと感じた。

(三澤文字子)